

東京本社 〒100-8125
東京都千代田区大手町1-7-2
TEL03-3231-7111
大阪本社 〒530-8277
大阪市北区梅田2-4-9
TEL06-6343-1221



土曜版 Saturday

Fuji Sankei Business

2005(平成17)年

5 | 28 [土]

フジサンケイ ビジネスアイ
日刊17710号

一部100円 月ぎめ3150円

ヒロ&ヒロイン グリーン・エネルギー・アドベンチャー代表 番場 健司さん



環境に優しい水素社会の実現を。こんな願いを乗せて、六月、燃料電池を動力源にした一台の電動ビークル(三輪車)に写真IIが、オーロラの国・アイスランドを駆け抜ける。

太陽光や風力発電など自然エネルギーの普及活動をしている団体「グリーン・エナジー・アドベンチャー」(GEA)が、「将来のエネルギーを探す旅」と意気込む一大イベントだ。

水素社会実現へ疾走

「ぜひプロジェクトを成功させ、次世代エネルギーの可能性を追求していきたい」。GEA代表、番場健司さん(50)は力を込める。

人口約二十九万、広さは北海道の一・四倍の大地。GEAの「アイスランド・プロジェクト」は六月四日に日本を出発した後、十一日から首都レイキャビックを起点に時計

回りで進み、一周約千四百キロを約一週間で走破するという計画だ。

アイスランドは総発電量の70%以上を水力、地熱といった自然エネルギーで賄う環境エネルギー先進国。将来、エネルギー源を水素系燃料にシフトし、世界の水素社会を創り出すという壮大な構想を進めている。

レイキャビックでは燃料電池バスが走るなど、さまざまな実証実験が行われており、膨らんだ。

主役のビークルはドイツ・トリペンド社製。心臓部である小型燃料電池は大同メタル工業(名古屋市)、電池に水素を供給する特殊な水素吸蔵合金ボンベは、日本製鋼所(東京都千代田区)の協力を得て完成させた。

プロジェクトの総費用はざっと二千万円。すべて手弁



ばんば・けんじ 1986年法政大学卒。在学中に英国留学し、ハンクグライターの理論・技術を修得。卒業後、米ソーラー・フライト・リサーチ社でソーラープレーン「タンボボ号」の開発・制作に従事。90年「タンボボ号」で北米大陸横断飛行、2000年には6500kmの徒歩による北極圏・北極到達に成功している。

当です。ビークルだけで五百万円かかったが、それでも安くあがったほう。協力してくれた企業には感謝の気持ちでいっぱいです」と番場さん。ビークルの愛称はアイスランドのシンボルの鳥、パフィン(日本名・角目鳥)にちなみ、「ハイドロ(水素)・パフィン」と名付けた。

サポーターとしてGEAのメンバー四人も参加。十五年前、番場さんが太陽光発電を動力とした人力飛行機「タンボボ号」で、米大陸横断(四千キロ)に成功したときからの気心の通う仲間だ。メンバーは「ハイドロ・パフィン」を車で伴走。走行中の通信や撮影、キャンプするときの調理など必要な電力はすべて太陽光と風力で賄う。

番場さんは実は、燃料電池の教材など環境関連商品の輸入販売会社「テラリウム」(川崎市)のオーナー社長。プロジェクトに没頭するあまり「会社の経営がおろそかになって…」と苦笑いするが、夢は譲れない。

今回は日本とアイスランドを衛星回線で結び、次世代エネルギーをテーマにテレビ会議も開催する。両国の子どもの児童交流プログラムだ。

横浜市立太田小学校と現地の小学校を、KDDIグループの携帯型テレビ伝送システム「ピスタ・ファイナダー」でつなぎ、ツアラーの様子を中継し、さまざまな質問や疑問に答える。このシステムによる双方向の画像伝送は初めて。テストも完了し、本番を待つばかりだ。

「僕たちの活動を通じ、一人でも多くの子どもたちに、グリーンエネルギーの大切さをわかってもらえれば」と番場さん。「最終目標は燃料電池ビークルでの南極点到達」だ。(斎木純一)